

# WRFを用いた富山周辺域における現在気候再現実験の出力 [4.5km]

## 1. 識別情報

名称	WRFを用いた富山周辺域における現在気候再現実験の出力 [4.5km]
版	ベータ版
略称	WRF-Toyama-ERAint-1990s
メタデータID	WRF_ctl_eraint_1990s_Toyama20230727071852-DIAS20221121113753-ja

## 2. 問合せ先

### 2.1 データセットに関する問合せ先

名前	馬 燮鈿
組織名	(独) 海洋研究開発機構
住所	日本, 神奈川県, 横浜市, 金沢区昭和町
電話番号	+81 45 778
電子メールアドレス	xyma@jamstec.go.jp

### 2.2 プロジェクトに関する問合せ先

#### 2.2.1 データ統合・解析システム

名前	DIAS事務局
組織名	国立研究開発法人海洋研究開発機構
住所	日本, 236-0001, 神奈川県, 横浜市, 金沢区昭和町3173番25
電子メールアドレス	dias-office@diasjp.net

## 3. ドキュメント作成者

名前	馬 燮鈿
組織名	(独) 海洋研究開発機構
電子メールアドレス	xyma@jamstec.go.jp

## 4. データ作成者

名前	馬 燮鈿
組織名	(独) 海洋研究開発機構
電子メールアドレス	xyma@jamstec.go.jp

## 5. ドキュメント作成年月日

2023-07-27

## 6. データ作成年月日

publication : 2014-11-25

## 7. データセット概要

### 7.1 序論

富山周辺域における、WRFを使った現在気候再現実験出力。期間は1990年から2010年の通年（8月1日-翌年7月31日）。水平解像度は4.5km。境界値と初期値には ERA-interimを用いた。

### 7.2 トピックカテゴリ (ISO19139)

climatologyMeteorologyAtmosphere

### 7.3 時間情報

開始日	1990-08-01
終了日	2010-07-31
時間分解能	Hourly

### 7.4 地理的範囲

北限緯度	38
西限経度	135.5
東限経度	139.5
南限緯度	35.5

### 7.5 グリッド

次元の名称	次元の分割数	次元の解像度
row	96	4500 (m)
column	88	4500 (m)
time	8760	60 (minute)

### 7.6 地理情報を識別する名称

### 7.7 キーワード

#### 7.7.1 データセットに関連するキーワード

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
----------	-------	--------

theme	Atmosphere > Precipitation > Snow	GCMD_science
theme	Climate	GEOSS
theme	Models > GCM	GCMD_platform
place	Asia > Eastern Asia > Japan	Country

## 7.7.2 プロジェクトに関連するキーワード

### 7.7.2.1 データ統合・解析システム

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	DIAS &gt; Data Integration and Analysis System	No_Dictionary

## 7.8 データセットに関するオンライン情報

DIASからのファイルダウンロード : <https://data.diasjp.net/dl/storages/filelist/dataset:236>

## 7.9 データ周辺情報

## 7.10 データ配布情報

配布識別名	配布バージョン	配布に関する説明
binary	ベータ版	

## 8. 系譜情報

### 8.1 データ処理 (1)

#### 8.1.1 データセット作成に関する加工過程や履歴の説明

領域気象モデルとして米国国立大気研究所(NCAR)を中心として開発されたWeather Research and Forecast (WRF) model、領域気象モデルの初期値・境界値として欧州中期予報センター(ECMWF)で作成された再解析データERA interim (6時間ごと)を用いて、北陸地方の過去再現実験を行った出力結果である

#### 8.1.2 元データの情報

データ起源の引用名	加工するデータ起源の説明
-----------	--------------

## 9. 品質等

## 10. 利用規約

### 10.1 データ提供者によるデータ利用規約

利用者は、DIASデータセットを利用した学会発表・論文発表・誌上発表・報告等を行う場合は、”利用したデータセットは、文部科学省「気候変動適応研究推進プログラム(RECCA)」の枠組みのもとで作成された。”の引用文を謝辞として明記すること。また、データ提供者が示す謝辞の引用文がある場合は、それも併記すること。

---

## 10.2 プロジェクトによるデータ利用規約

### 10.2.1 データ統合・解析システム

データ提供者がデータ利用規約を定めていない場合は、DIASサービス利用規約 (<https://diasjp.net/terms/>) およびDIASプライバシーポリシー (<https://diasjp.net/privacy/>) が適用されます。

DIASサービス利用規約とデータ提供者によるデータ利用規約に齟齬がある場合は、データ提供者によるデータ利用規約が優先して適用されます。

## 11. ライセンス

## 12. 謝辞の記載方法

### 12.1 データ提供者の指定による謝辞の記載方法

### 12.2 プロジェクトの指定による謝辞の記載方法

#### 12.2.1 データ統合・解析システム

このデータセットを利用して学会発表、論文発表、誌上発表、報告などを行う場合は、以下を参考に謝辞を記載すること。また、データ提供者が示す謝辞の記載方法がある場合は、それも併記すること。

“ 本研究では、[データ提供者の名称]が提供する[データセットの名称]を利用した。またこのデータセットは、文部科学省の補助事業により開発・運用されているデータ統合解析システム(DIAS)の下で、収集・提供されたものである。 ”

## 13. 参考文献